

都道府県名：群馬県	市町村名：高崎市
<p>1. 活動名 観音山里山整備</p>	
<p>2. 取組の背景、目的 国民総参加による森づくりを進めるため、国有林が推進している「ふれあいの森」事業を活用。 一時的な森林整備作業ではなく、継続性を持った計画的な森林整備を都市部に近い里山で実施することにより、会員をはじめ多くの方に「森の自然、生態、景観等環境を学び 21 世紀の森のあるべき姿を考える」といった会の目的を広く考えて貰うために実施した。</p>	
<p>3. 実施主体 特定非営利活動法人 フォレストぐんま 21</p>	
<p>4. 取組の概要 平成 17 年度から平成 21 年度までの 5 年間、高崎市観音山にある国有林の一部 5.4ha を借受け、「フォレストぐんま 21 の森」を設置した。森林の継続性のある整備を念頭に、除間伐、つる切りや下草刈り等の作業を実施した。 森林が都市部に近いこともあり散策に訪れる市民も多いが、整備前の林内は暗く、つるにより立ち枯れた樹木も多く、また、不法投棄も多いため、林内に入れる状態ではなかった。 しかし、5 年間の整備（延べ 24 日間、409 人作業）により、林内には陽が差し込み、不法投棄もなくなり健全な森林に誘導できた。 整備においては、会員ばかりではなく市民の参加もあり、また、整備の締めくくりとして地域の小中学校をはじめ、地域の自然を守る団体の参加を得て、林業体験学習やカブトムシの成育場所作りを実施した。</p>	
<p>5. 支援事業 セブンイレブンみどりの基金</p>	
<p>6. 取組等についての成果や課題 整備作業による森林の健全化はもちろんであるが、作業参加市民から「貴重な体験をした」「里山は人が管理する重要性を肌で感じた」などの感想が寄せられたことが嬉しかった。 しかし、5 年間の契約期間が終了したためこの場所の作業から離れることになり、今後、この森がどのように変わっていくかが心配である。</p>	



平成 17 年 8 月 27 日 晴れ

観音山丘陵の一角に「FG21 の森」が出来た。いよいよこれから5ヶ年計画で、ふれあいの森にふさわしい整備に取り掛かる。しかし、現地の林内はかなり暗く、あちこちに古い倒木があり、生育の悪い木や、蔓にからまれて倒れかかっている木が目立つ。

明るく元気のいい林になるまでには、かなりの時間がかかりそうである。



平成 18 年 8 月 5 日 晴れ

昨年に引き続き、枯損木や松くい虫にやられた松の処理に取り掛かった。今までの我々では考えられない危険をとまなう作業である。

倒せば係り木になる松によじ登り、ロープがけをしている。観音山丘陵の森では、いたるところでこのような松が点在していた。

幸いこの松もローププーラで起こしながら係り木にもならず倒すことが出来た。



平成 19 年 8 月 4 日 晴れ

3年目を向かえ、まだ左の写真のような蔓が散見される。蔓に絡まれたスギが悲鳴を上げている。

「FG21の森」にはこのような大木になった蔓があちらこちらにある。蔓に絡まると、絡まれた蔓の木だけではなく周辺の木が同じ蔓に絡まれて、伐倒が大変になる。



平成 20 年 7 月 20 日

これまでは風倒木のなかでも巨木の処理が出来なかったが、今年は企業からの支援によりエンジン付の引っ張り機を購入する事が出来たため、引っ張り機の威力により「FG21 の森」での風倒木の処理が終えた。

処理した後は一段と景観が良くなり、ふれあいの森らしくなった。



平成 21 年 9 月 6 日

平成 17 年から始まった観音山丘陵整備もこの日が最後になった。

作業開始当時に比べ、ごみの不法投棄・松枯れ木・蔓等がなくなり、除間伐をおこなった結果、市民の憩いの場「ふれあいの森」へと我々の手で見違える森に再生できた。

綺麗になった森に、地元の子供たちのカブトムシやクワガタの集まる森にして欲しいとの要望に答え、ビオトープ作りをした。美しい森には多くの人たちが集まる。